

近年、道路をめぐる騒音、排出ガス等の環境問題が深刻となってきたおり、早急な解決が求められています。これについては、汚染発生源である自動車等の改善が不可欠であります。これにあわせて道路構造面の対応も強く求められています。

このため、今後は一定の要件に該当する幹線道路にあっては、沿道環境を保全するため車道端から10mまたは20mの環境施設帯を設けることとされています。

さらに、交通安全対策に資し、かつ沿道住民の日常生活の場としての歩道、自転車道等の充実や緑化の推進が社会的要請として強まっていることと、道路空間が防災上あるいは上下水道、電気、ガス等に多目的に利用されている空間であることを重視し、今後は道路幅員の充実および標準化を図ることとされています。幹線道路および補助幹線道路についても標準化が考えられていますが、主要幹線道路では図-1のような断面が考えられています。

環境施設帯を取り、後世への遺産となる緑豊かな道路をめざしているものの一つに、首都圏の交通の動脈として、また住みよい豊かな町づくりの根幹となる東京外郭環状道路

(図-2)があります。戸田市—川口市の区間は、従来の計画の40mの道路幅員を62mに拡幅し、環境施設帯をとることが計画されており、川口市安行地区400mはモデル道路としてすでにほぼ完成しております。今後の望ましい道路づくりは、まだその緒についたばかりとはいえ、着々と実現されつつあるといえます。

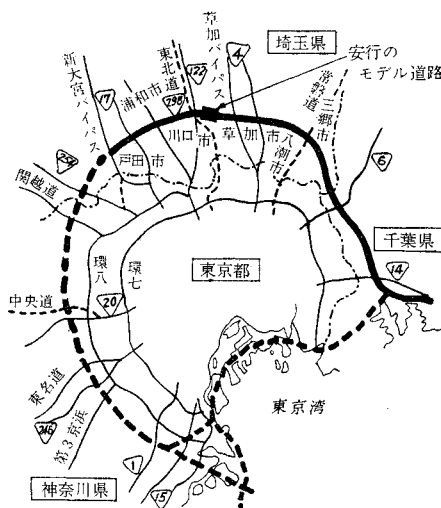


図-2 東京外郭環状道路概要図

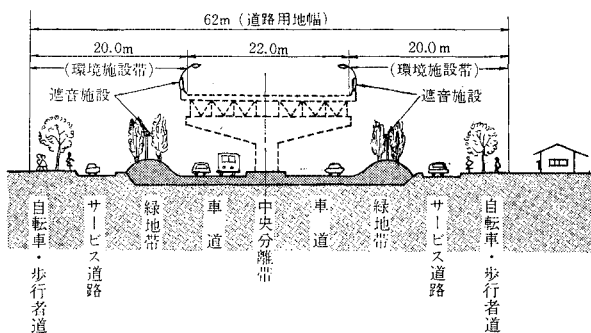


図-3 20mの環境施設帯をとった東京外郭環状道路 (戸田—川口)

地域区分 道路分類	都 市 部 地 方 部			
	良好な住環境を保全すべき地域		その他の地域	
主要幹線道路	6車線 50m 10.0 2.0 10.5 5.0 10.5 2.0 10.0		6車線 40m 5.0 2.0 10.5 5.0 10.5 2.0 5.0	
	4車線 40m 10.0 1.5 7.0 3.0 7.0 1.5 10.0		4車線 30m 5.0 1.5 7.0 3.0 7.0 1.5 5.0	
	2車線 16m 3.0 7.0 3.0		2車線 16m 3.0 7.0 3.0	
	歩道設置の場合 12m 1.5 7.0 2.5		歩道設置の場合 12m 1.5 7.0 2.5	

図-1 主要幹線道路における今後の標準横断構成図案 (専用道を除く)